

まちづくりは地域から



考えよう21世紀のふるさと

*市民と行政との協働に

地域イメージを共有

本市は、「歴史と文化の香る都市」をまちづくりの目標に置き、市民と行政との協働が市民のみなさんの意向を十分に把握することが必要です。今年を目標年次とします「おだわら21世紀プラン」の推進に努めています。

*高まる地域への関心

国調等データを分析

今回「地域カルテ」としてまとめた資料は、市域を六つの地域に区分し、昭和六十年の国勢調査及び都市計画基礎調査をベースに、市民アンケート調査や市が保有している各種資料によってそれぞれの地域の現況が一目でわかるように、すべて図表化して作成したものです。

*くらしと地方自治制度

わたしたちが築く明日

みなさんは、朝起きるとまなを洗って、食事をし、顔を洗って、水を飲む。蛇口をひねれば水が出ます。当然のことと思われるかもしれませんが、わが国ほど安心しておいしい水が飲める国はありません。小田原市における水道のほとんどは、市が経営する事業です。また、食卓にのぼる魚や野菜を大量に扱っている卸売市場も市が開設しています。

*着て参加ください

6か所で地域懇談会

今回まとめた資料については、各地域ごとに下表の「地域懇談会」という形で説明会を行います。また、こうした資料をもと

地域懇談会の開催日程

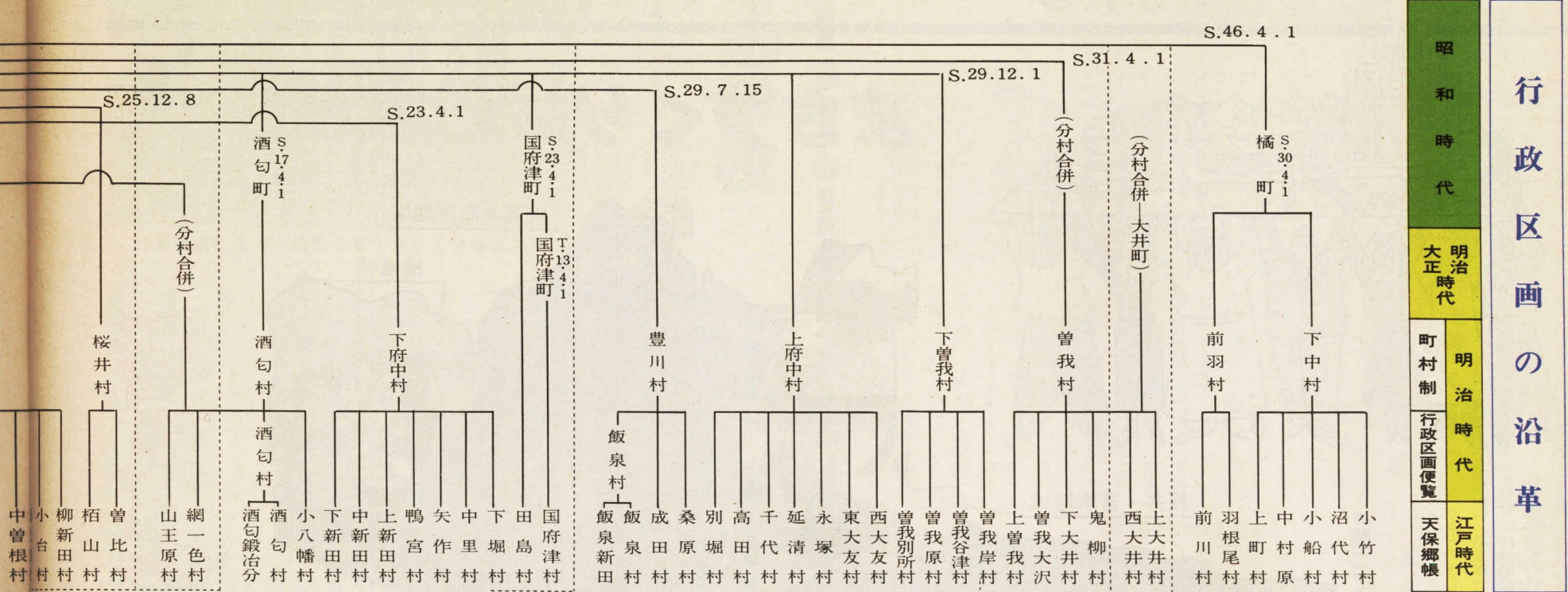
Table with columns for Date (月日), Time (時間), Venue (会場), and Target Area (対象地域). It lists six regional consultation events from July 19th to July 29th.

子供が生まれると市役所に届け出ます。また、赤ちゃんがすこやかに育つよう健康診査や保健指導などを行っているのは、県や市の機関です。六歳になれば学校へ通います。小学校や中学校のほとんどは市立です。年をとると市から健康手帳を交付され、これによって医療を受けることになり、死亡すれば市役所に死亡届が出され、戸籍から

ふるさととは...

地域カルテ概要

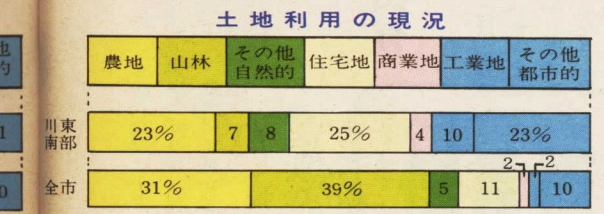
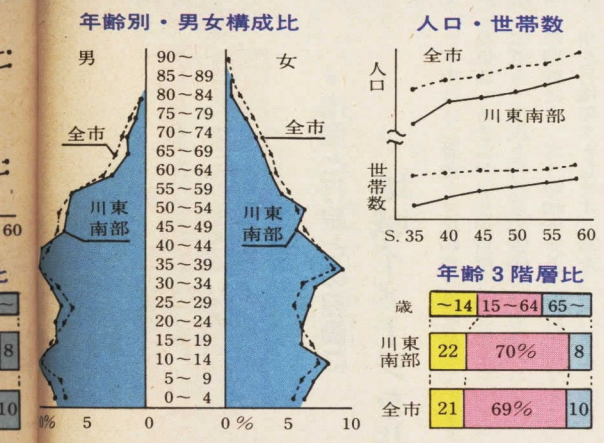
問い合わせは、企画政策課 ☎33-1253 へどうぞ



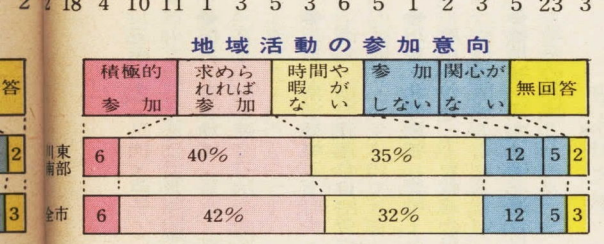
行政区画の沿革

川東・南部地域

人口 44,783人
面積 9.80km²

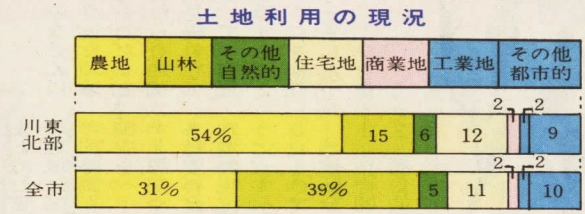
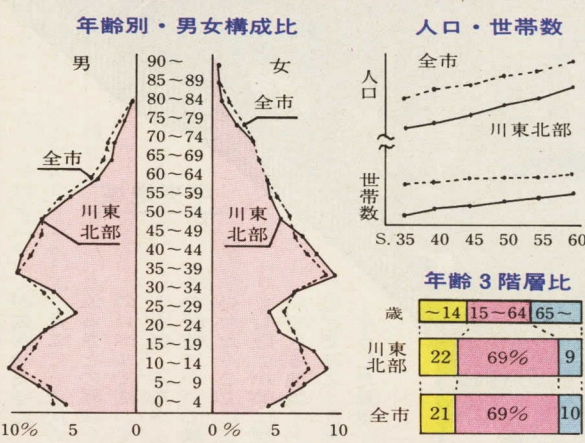


区分	事業所数	従事者数
川東南部	1,691	19,137
全市	10,108	91,247

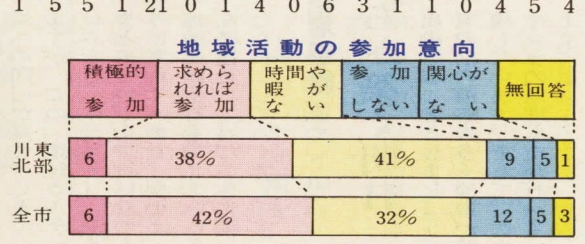


川東・北部地域

人口 21,788人
面積 16.90km²

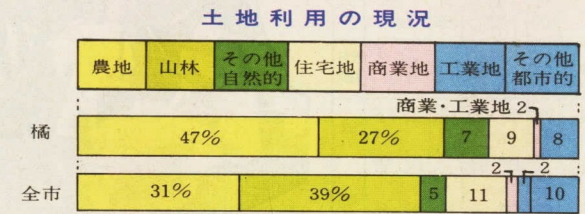
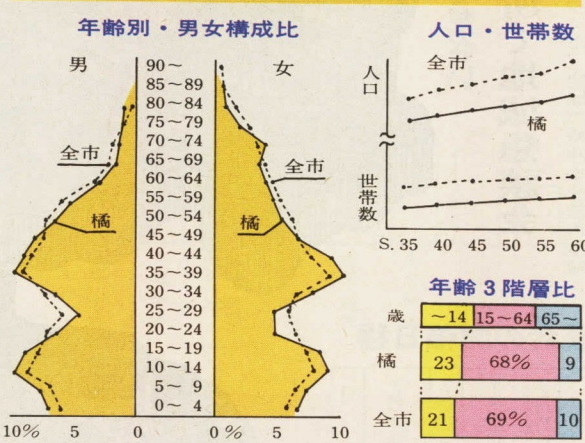


区分	事業所数	従事者数
川東北部	874	9,548
全市	10,108	91,247

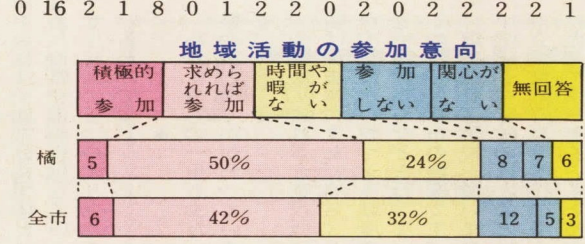


橋地域

人口 10,693人
面積 8.88km²



区分	事業所数	従事者数
橋	284	3,195
全市	10,108	91,247



人口

土地利用

産業

公共施設

コミュニティ意識

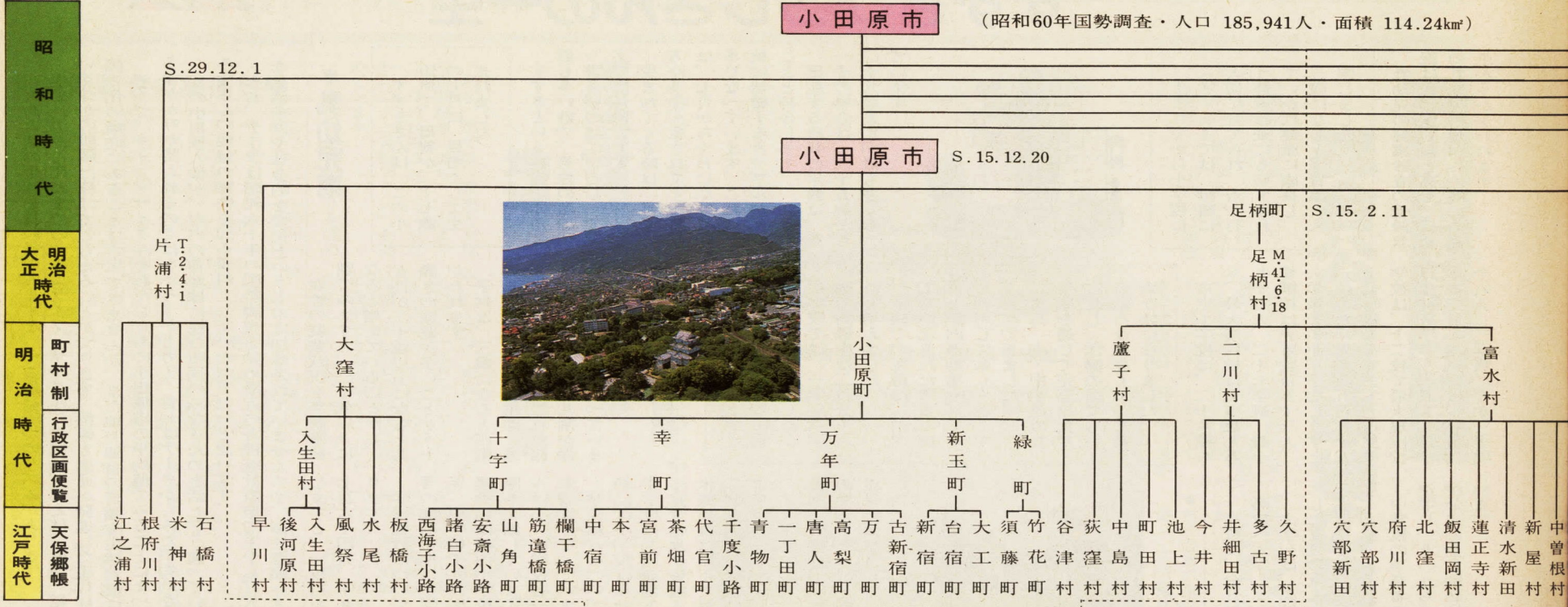
地域アラカルト

*** 酒匂の宿**
酒匂の地名は、「海道記」に「路は順道なれども宿の逆川といふ処に泊る、潮のさす時は上さまに水の流るればさか川といふ」とある。

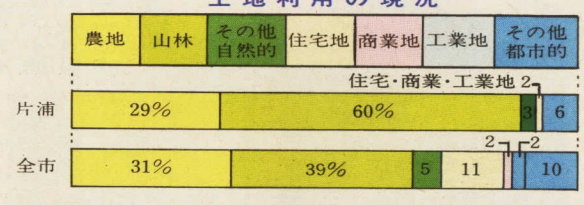
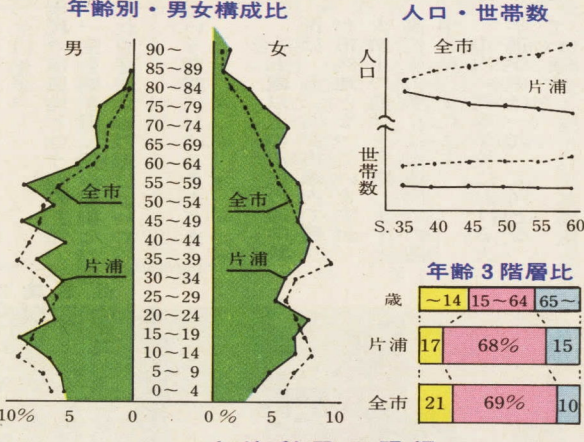
*** 千代台の廃寺址**
千代台は、足柄平野にある独立した台地で、大昔から集落が営まれた所ですが、ここには小字の地名として観音屋敷、弥勒畑、堂の後、塔の腰などがある上に、布目瓦や古代寺院の礎石が発見されたことから、奈良時代の国分寺に類する寺院があったのではないかと推定されています。

*** 中村氏一族**
源頼朝の鎌倉幕府創設に際して、それを支えたのは相模の国の武士たちでした。中でも小竹の殿ノ久保に居館を構えた豪族中村氏の力は大きなものがあり、その一族は次のとおりでした。

いま 昭和60年 国勢調査 昭和60年都市計画基礎調査 昭和61年事業所統計調査 わたしたち



片浦地域 人口 2,429人 面積 17.39km²



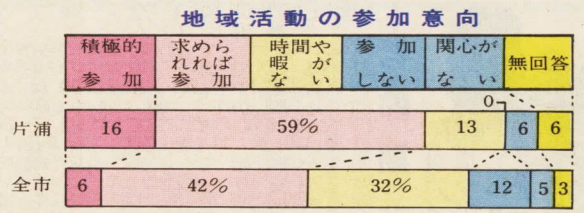
事業所・従事者数

区分	事業所数	従事者数
片浦	91	572
全市	10,108	91,247

産業別人口比

区分	第1次	第2次	第3次
片浦	35%	21%	44%
全市	5%	38%	57%

- 公共施設**
- 市役所・支所・連絡所
 - 病院・診療所・医院
 - 警察署・派出所・駐在所
 - 広域避難場所
 - 防災倉庫
 - 消防署・分署・分遣所
 - 郵便局
 - 保育園
 - 幼稚園
 - 小学校
 - 中学校
 - 高等学校・大学
 - 公民館・類似公民館
 - 金融機関
 - 農業協同組合・支店
 - 都市公園
 - 鉄道駅

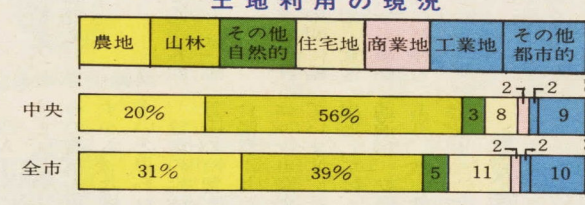
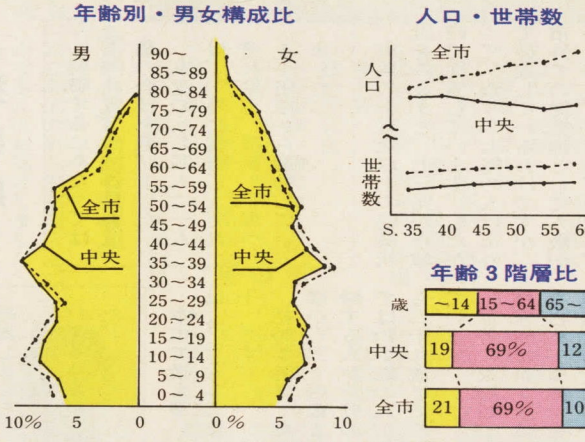


***日本のリヴィエラ**

リヴィエラとは、世界の観光・保養地と知られています。地中海のフランスからイタリアにかけての国境地帯の海岸のことで、フランスではコートダジュールといわれています。

このリヴィエラの海岸に似ているといわれるのが片浦海岸です。これは、ドイツの著名な建築家によって設計されたアルノー・タウトが言ったことですが、現在はずかたに地理学者の間で知られているにすぎません。

中央地域 人口 70,695人 面積 51.50km²



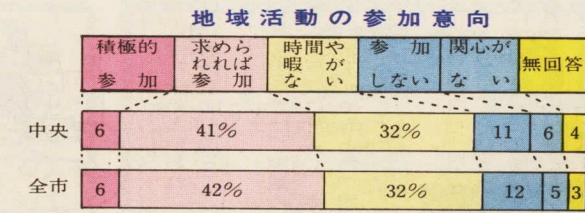
事業所・従事者数

区分	事業所数	従事者数
中央	5,924	50,970
全市	10,108	91,247

産業別人口比

区分	第1次	第2次	第3次
中央	4%	33%	63%
全市	5%	38%	57%

- 公共施設**
- 市役所・支所・連絡所
 - 病院・診療所・医院
 - 警察署・派出所・駐在所
 - 広域避難場所
 - 防災倉庫
 - 消防署・分署・分遣所
 - 郵便局
 - 保育園
 - 幼稚園
 - 小学校
 - 中学校
 - 高等学校・大学
 - 公民館・類似公民館
 - 金融機関
 - 農業協同組合・支店
 - 都市公園
 - 鉄道駅



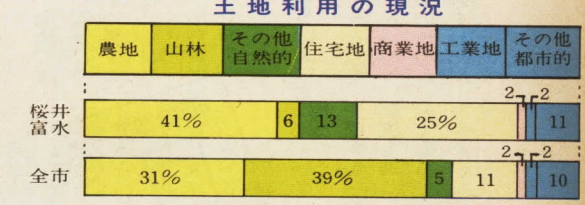
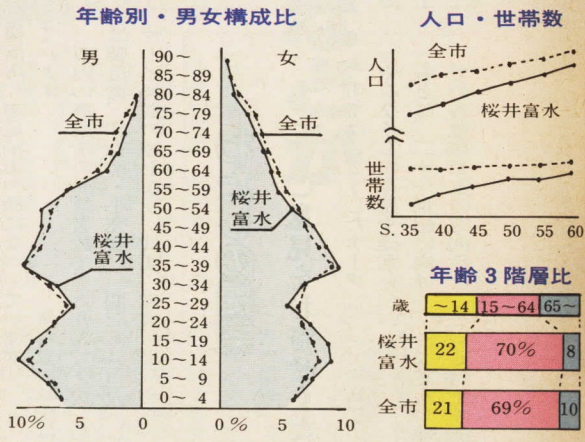
***藩校集成館と文武館**

小田原藩主で江戸幕府の老中首座をつとめた大久保忠真が、文政五年(一八二二)に創設した藩校が集成館です。これは、小田原城の三の丸である現在の本町小学校の所内にあります。

明治に入り、校名を文武館と変え、明治五年には廃止となりましたが、その施設をもとに郷学・日新館(小学)、共同学校(中学)がつくられました。

この日新館がその後変遷して、現在の本町小学校と城内小学校になっています。

桜井・富水地域 人口 35,553人 面積 9.77km²



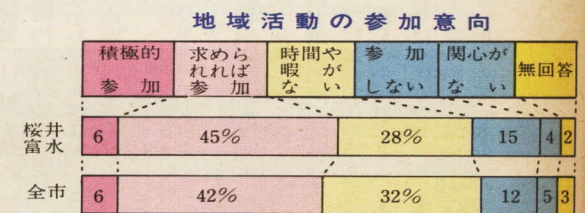
事業所・従事者数

区分	事業所数	従事者数
桜井富水	1,244	7,825
全市	10,108	91,247

産業別人口比

区分	第1次	第2次	第3次
桜井富水	3%	40%	57%
全市	5%	38%	57%

- 公共施設**
- 市役所・支所・連絡所
 - 病院・診療所・医院
 - 警察署・派出所・駐在所
 - 広域避難場所
 - 防災倉庫
 - 消防署・分署・分遣所
 - 郵便局
 - 保育園
 - 幼稚園
 - 小学校
 - 中学校
 - 高等学校・大学
 - 公民館・類似公民館
 - 金融機関
 - 農業協同組合・支店
 - 都市公園
 - 鉄道駅



***尊徳生家の変遷**

二宮尊徳生誕二百年を記念して建設された尊徳記念館の横にある尊徳生家は、昔からそこにあったのではなく、何度も移動して現在地に復元されたものです。

尊徳の生家は、一家離散の悲運の際に売られてしまい、その後少なくなると二回以上移動しましたが、幸いほとんど元の姿のまま残っていましたので、昭和三十年の尊徳没後百年目の記念事業の一つとして柳新田の渡辺家から譲渡してもらい、昭和三十五年に移築復元したものです。

人口

土地利用

産業

公共施設

コミュニティ意識

地域アラカルト

データからみた 平均的な小田原人



すすきひろしさんの一生

一人の人間の生活を長い目でみますと、そこには一つのリズムがあります。生まれてから死ぬまでの一生(ライフ・サイクル)の間は、例えば、就職、結婚といった人生の大きな節目でもいくつかの段階に分けてとらえることができます。情報と流通が発達した現代社会においては、人々の生活や考え方は画一化の傾向にあることは否定できませんが、まだ地方独自の言葉や生活習慣は根強く残っています。そこで、ライフ・サイクルをわたしたちの小田原市の平均値でみることで、小田原市民の市民性というものを知ら手がかりが得られるのではないかと考え、言わばデータからみた平均的な小田原人の一生を描き出してみました。この小田原人像が、市内の各地域に住む市民のみならずの生活とどう違っているのか、それを認識することによってみなさんの地域の特性を知る資料としていただきたいと思います。

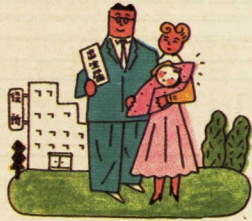
なお、データは昭和六十年の国勢調査を始め最近の各種統計数値です。人間の一生という期間におけるさまざまな生活条件や社会的な変化というものは加味していませんので、御注意願います。

*乳幼児期

すすきさんは、この小田原で、母親が二十七歳の七月に、長男として生まれました。

すすきという姓は、本市で最も多い姓で、男性の名前で一番多いのは「ひろし」で漢字では「博」です。

生まれてくる時は、男子の方が多く、生まれてくる時期は、七月から十月にかけてが多くなっています。これは、秋に結婚するカップルが多いことと符合します。



生まれてから小学校に入学するまでは、母親に大切に育てられ、市が行う健康診査にも必ず連れていかれ健康に成長し、三歳になると保育園に入園しました。

乳幼児の健康診査の受診状況は九〇%前後と高く、母親の乳幼児の健康への関心の高さがうかがわれます。

女性の就業状況を年齢階級別で見ると、三十歳以上に七六四四人、十九歳以下は二七一人と増えていることから、女性が三十歳以上になると共働きの家庭が多いことがうかがわれます。

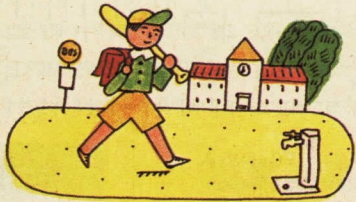
子供は、三歳になると四割近くが保育所又は幼稚園に通うこととなります。これが四歳児になり、九割が保育所又は幼稚園に入っています。

*学校教育期

小学校に入学すると、一学年三級編成で同級生は百人ばかりでしたが、中学校では、一学年六級で同級生は二百五十人にも増えました。

学校での生活は、すべて鉄筋化された明るい校舎と屋内運動場やプールを利用して楽しく過ごすことができました。

また、小・中学校の九年間を通じて完全給食でいろいろな検査もあって健康な体になりました。



市立小学校は、二十六校あり、最大規模校は児童数九百九十五人、二十七級、最小規模校は児童数五十三人、六学級ですが、平均すると一校当たり児童数五百九十人、十七級とあります。市立中学校は、十二校で最大規模校は生徒数千七百七十五人、三十学級で最小規模校は生徒数九十六人、三学級ですが、平均

中学校の卒業者の九五%が進学し、そのうちの六割以上が公立の全日制高校に入っています。

*独身期

就職するにあたっては、市内の電気機械器具製造業の会社を選びました。

友達のうち四人に一人は、市外に就職し、それぞれ東京、横浜、平塚へと小田原から通勤していました。

市民の十五歳以上の就業状況をみると、七三%が市内で従業しています。したがって、残り二七%の人は市外で従業しているわけですが、市外での従業地として人数が多いのは、東京都、平塚市、横浜、南足柄市の順になっています。

市内の事業所の従業者数は製造業、卸売業、小売業、サービス業の順となり、就業率は、卸売業が二五%、製造業が二二%、小売業が一七%、サービス業が一五%です。

市では、こうしたデータやみなさんの意見を参考に、二十一世紀に向けての各地域ごとの方向性を

*家族形成期

ひろしさんは、三十歳でけいこさん二十五歳と結婚しました。



結婚を機に新世帯をアパート住まいで始めました。

本市で最も多い女性の名前は「けいこ」で、漢字では「恵子」です。

結婚年齢は、男性では三十三歳から三十四歳までの間に結婚する人が三分の一で、女性では約半数の人が二十五歳から二十九歳までの間に結婚しています。

世帯の家族類型をみると、核家族世帯が全体の三分二を占め、単独世帯を除いた親族世帯では四分の三を占めています。

持ち家の状況は、全体では六九%ですが、若い層及び年間収入五百万円以下の層では、賃貸、地代を払っている世帯が多いです。

市では、こうしたデータやみなさんの意見を参考に、二十一世紀に向けての各地域ごとの方向性を

*家族成長期

子供は、妻が二十七歳の時に男の子、三十歳の時に女の子が生まれ、四人家族となりました。

家族構成は、全体では一世帯当たり三・五人ですが、サラリーマン世帯では三・二五人となっています。

子供が学校に入るようになり、教育にかける費用も多くなり、四十五歳のころには、妻も外に出て働くようになり、二人家族の生活実態をみますと、世帯主が四十五歳のころの有業人員は一・八四人です。共稼ぎ家庭がかなり多いと思われる。

日常の生活は、月々二十九万円の消費支出があり、うち食糧費が九万円と一番大きく、エンゲル係数は二二%と低くなっています。

退職後は、のんびりと過ごしたいと思いましたが、生活上の必要性と社会参加への意欲を満たすために、再就職の口を求めて働くこととしました。

サラリーマン生活も五十八歳で定年になり、退職しました。

退職後は、のんびりと過ごしたいと思いましたが、生活上の必要性と社会参加への意欲を満たすために、再就職の口を求めて働くこととしました。

*老齢期

人生八十年といわれ、長い老後生活を送ることになりました。

日常生活では、地域の老人クラブに加入し、ゲートボールや春と秋の湯治旅行を楽しんでいます。

老人クラブとして望まれる施策については、「年金制度の充実など経済的保障」が全体で五三%となっていますが、高齢層では六割を超え、老人医療の給付が始まる前の六十歳から六十九歳までの層では六六%と最も高くなっています。

老人クラブの加入は六十歳以上です。加入状況は五割を超え、六十五歳以上になると、約七割の人が、地区の老人クラブに加入しています。

老人クラブの行事としては、日常はゲートボールが、また一年一回の老人体育祭と春秋二回の湯治旅行が多くの人に

地域づくりを進める上で、地域の特性を知る手がかりとしていただくとともに、小田原の市民性についても考えて

地域づくりを進める上で、地域の特性を知る手がかりとしていただくとともに、小田原の市民性についても考えて

わたしの提案

ご意見をお寄せください

地域づくりについての意見や提案を「わたしの提案」を通じてはがきで各郵便局にお願いします。

〒250-0000 小田原市建設三〇〇番地	
小田原市長 山橋 敬一郎 (広報課)	
住所	〒250-0000
氏名	
性別	男 女
年齢	

「わたしの提案」のはがき、各支所・連絡所又は各郵便局にありますのでご利用ください。